

那覇空港第二滑走路着工 特集

～沖縄から世界へ飛躍する～



ごあいさつ
内閣府沖縄総合事務局
開発建設部長
小平田 浩司氏

沖縄県民の長年の夢であった那覇空港第二滑走路は、県知事・那覇港管理者からの埋め立て承認や、漁業補償の締結などの諸手続きを経て、2014年1月中旬に着工しました。これを記念して3月1日、政府、県、経済界多数の皆様にご出席頂き、那覇市内で起工式を行いました。

03年からP1（パブリック・インボルブメント）の開始、10年からの環境影響評価手続き、そして13年4月に新規事業採択。ここに至る長年の過程で、太田昭宏国土交通大臣、山本一太内閣府特命担当大臣をはじめ県内外の国会議員、沖縄県・地元市町村、地元経済界、空港利用企業など多くの皆さまからご支援へ、ご協力をいただきました。

本事業の意義は、1月の通常国会において安倍晋三首相が施政方針演説で示した「アジアとの物流のハブであり、観光客を迎える玄関口として、那覇空港第二滑走路は日本の成長のために不可欠です」との言葉に尽きます。

貨物ハブについては全日本空輸による国内4方面、海外6方面を深夜貨物便ネットワークで接続するサービスが定着し、さらに沖縄県を中心にロジスティクスセンターの建設が始まっております。観光面では、昨年の沖縄への入域客数は過去最高の641万を超え、さらに格安航空会社（LCC）の充実や7月17日の新国際線ターミナルの供用開始など、環境整備も整いつつあります。

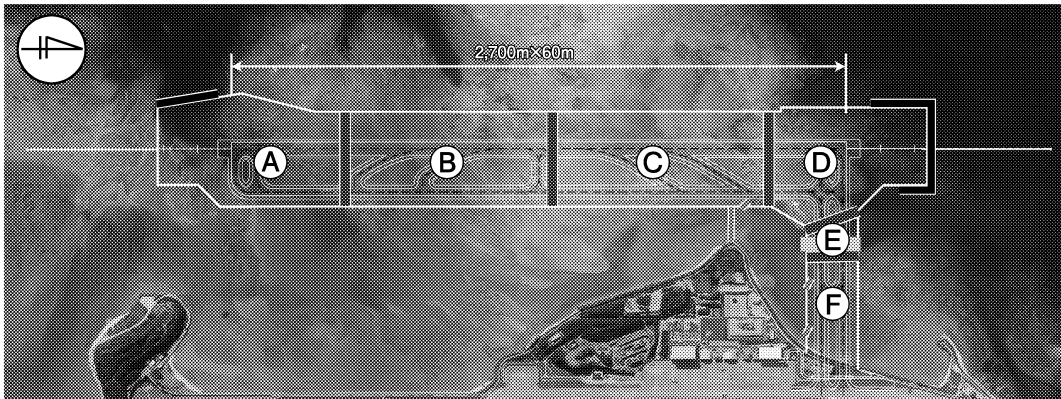
一方、現在の那覇空

港の発着回数は147,000回（12年度）で、滑走路の処理能力は限界に近づきつつあります。さらなる貨物ハブの充実や、県の目標（成数1,000万人・21年）達成のためにも、第二滑走路の早期整備は必要不可欠です。

第二滑走路増設工事の現地は、外海に面し風や冬期波浪の影響を受け、水深が浅く大型作業船の近接可能エリアが限定的である。周辺海域にはサンゴや貴重な生態系がありそれらの配慮が必要です。しかし、これを克服して20年春の供用を目指すので、今後とも皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。

○現地の特徴

- ①外海に面し、台風や冬期波浪等の影響を受ける
- ②水深が浅く、大型船の近接可能エリアが限定的
- ③周辺海域の自然環境への配慮が必要
- ④空港周辺にはまとまった土取り場が無い



○スケジュール

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
護岸工事	○ 締切完了						
埋立工事	◀ 埋立開始						
舗装工事							
進入灯工事等 (空港施設工)							

那覇空港は海に面している。第二滑走路は海を埋め立てて建設される。工期は約6年で、護岸工事から始まる。仮設棧橋や揚土岸壁、中仕切り堤を設け、順次6つの工区で埋め立て工事を行う。その後、舗装工事、進入灯工事（空港施設工）がなされ完成となる。

ただ、外海に面した工事なので、夏の台風や冬の強風・高波の影響を受ける。また、水深が浅く大型船が近づけるエリアに限られるので、工事には高い技術が必要となる。加えて空港周辺にはまとまった土取り場がないので、埋め立て用の土の確保も課題だ。

しかし、今回の工事は沖縄振興法に基づいて沖縄県内の業者の受注機会の拡大に配慮して発注される。雇用や技術向上につながり、地元の発展に向け一丸となって工事が進められると期待される。



那覇空港第二滑走路 完成予想図

工期は6年、 難工事も技術向上に期待

那覇空港の第二滑走路増設工事が始まった。那覇空港の2012年度乗降客数は、国内・国際線合わせて1542万人で全国6位。滑走路1本の空港では福岡に次ぐ多さで、滑走路の発着処理能力は限界にきている。これは空路がメインとなる沖縄にとって、経済・産業発展の妨げとならない。第二滑走路増設は沖縄の未来を開く最重要プロジェクトだ。完成すれば観光、物流のゲートウェイ、アジアのハブ空港としての地位が確立され、大きな発展が見えてくる。

沖縄の 自立発展の 端緒に

第一滑走路が完成すると、発着処理能力は現在の13万5000回から18万5000回に増える（回転翼機、深夜発着機は含まず）。13年度の観光客は670万人が見込まれていたが、21年度には1000万人の大白台に乗ると予想される。

国際物流のハブ拠点としての地位も高まる。24時間空港の利点を生かし、那覇空港とアジア主要都市とを貨物便で結ぶビジネスは拡大する。沖縄県と沖縄振興法（「那覇市」は、14年秋に沖縄大交易会を開く。国内の食品メーカーと国内外のバイヤーを集め、大規模な展示会を開催する。

模範談会を行う。商談がまとまれば、貨物便の利用拡大につながる。滑走路増設に先駆け、ハブ機能の周知は着々と進められる。

人口減少に転じた日本にあって、沖縄県はなお人口が増えている数少ない地域。滑走路増設と並行して港と那覇市内を結んでいるモノレールの延伸工事も行われ、プロジェクトはめじろ押し。

地元経済界からは軌道導入が必要との声も出てくる。アジアのゲートウェイとして魅力的な投資先となっており、滑走路の増設によりその魅力はさらに高まる。

那覇空港滑走路増設工事安全協議会

那覇空港滑走路増設護岸方塊ブロック工事

株式会社万田建設

那覇空港滑走路増設仮設棧橋1築造外1件工事

あおみ建設・大本組・南海建設特定建設
工事共同企業体

那覇空港滑走路増設仮設棧橋2築造工事

五洋建設・りんかい日産建設・丸尾建設
特定建設工事共同企業体

那覇空港滑走路増設ケーソン仮置場築造工事

株式会社呉屋組

那覇空港滑走路増設護岸ケーソン工事

株式会社國場組

那覇空港滑走路増設護岸ケーソン工事(第2次)

共和産業株式会社

那覇空港滑走路増設浚渫工事(北W工区)

丸尾建設株式会社

那覇空港滑走路増設浚渫工事(北N工区)

那覇空港滑走路増設浚渫工事(南工区)

株式会社大米建設

私たちは安全第一をモットーに建設して参ります。